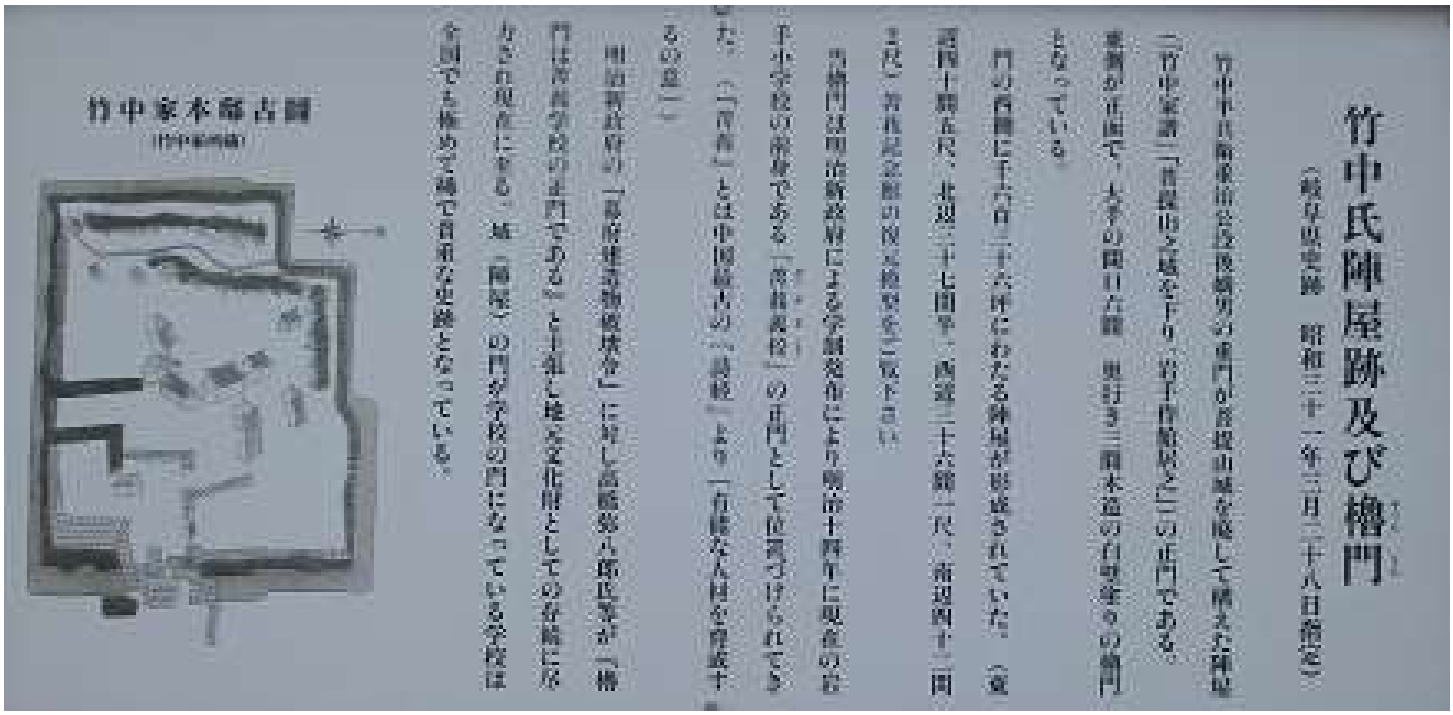
2022,3,9　　自然・歴史探訪　関ケ原合戦ロマンを語ろう　菩提山・笹尾山の準備に行きました

アクセス状況・コースタイム・危険度・城跡のポイント確認など調査しました。関ケ原の合戦の舞台に立ち、歴史ロマンに思いを馳せましょう。大久保のセツブンソウを見に行きましたが、まだ雪が多く花は見られませんでした。でも、せっかくですから、セツブンソウのお花を見に寄ってみましょう。皆さまのご参加をお待ちしています。

◆下見状況　１．菩提山ハイキング

２．竹中氏陣屋跡



竹中氏陣屋跡及び櫓門

（岐阜県史跡　昭和三十一年三月二十八日指定）

竹中半兵衛重治公生誕地朝男の重門が菩提山城を後して構えた陣屋

二「竹中家譜」「菩提山之城を下り（岩手清水原）」の正門である。

重門が正面で、左手の四日右図　東行き三間本造の白壁塗りの櫓門

となっている。

門の西側に千六百二十六坪にわたる陣屋が形成されていた。（東

西四十間五尺、北辺三十七間半、西辺三十六間一尺、南辺四十二間

三尺）詳細は資料の図面を御覧下さい

明治維新政府による学制発布により明治十四年に現在の岩

手小学校の前身である「常盤義校」の正門として位置づけられてい

た。（「常盤」とは中国最古の「詩経」より「在樹なん枝を理蔓す

るの意」）

明治百年記念事業の「幕府建造物調査会」に対し高橋延八郎氏等が「櫓

門は常盤学校の正門である」と主張し地元文化財としての存続に尽

力され現在にいる。城（陣屋）の門が学校の門になっている学校は

全国でも極めて稀で貴重な史跡となっている。

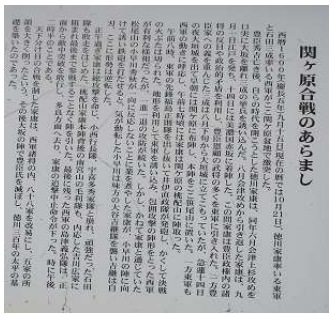
竹中半兵衛重治

（一五四四年～一五七九年）

重治公はこの地の菩提山城を本拠とし、智謀神の如しといわれた名軍師で、木下藤吉郎に三顧の礼をもって迎えられた。信長に仕え、秀吉の懐刀となり、形影相伴って各地を転戦し、知恵袋として活躍した無欲の武将であった。播州三木城攻略中惜しくも三十六才の若さで陣没した。墓はここより北五百㎞の禅憧寺にある。

垂井町

３．笹尾山



関ケ原合戦のあらまし

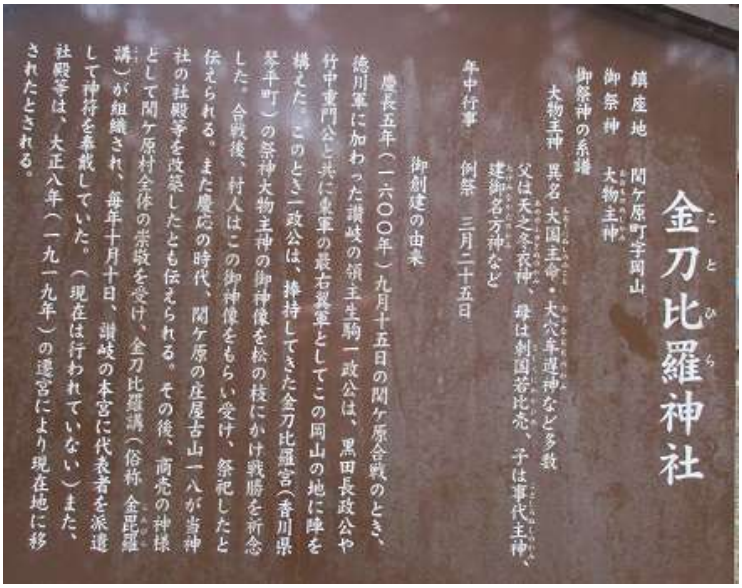
西暦一六〇〇年慶長五年九月十五日（現在の暦では10月21日）、徳川家康率いる東軍と石田三成率いる西軍がこの関ケ原盆地で激突した。

豊臣秀吉亡き後、自らの時代を開こうとした徳川家康は、豊臣大坂を離れ、三成の挙兵を誘い込んだ。八月会津攻めから引き返した家康は、九月一日江戸を発ち、十四日には美濃国赤坂に着陣した。この間家康は豊臣政権内の諸侯への説得や秀頼の名の利用し、豊臣恩顧の武将の多くを東軍に引き寄せられた。一方豊臣家の実権を握っていた三成は、八月から大垣城にとどまっていたが、急遽十四日夜半に佐和山城を出発し、大垣城に入城した。翌十五日早朝、三成は、関ケ原の西南に位置する笹尾山に陣取った。

一方東軍も、家康の先鋒福島正則隊は、関ケ原の西北に陣取った。

夕方、東軍の先鋒福島正則隊は、笹尾山の三成の陣を攻撃した。

のち、三成は、島左近の進言により、笹尾山の西南に位置する天満山に移動した。

午前六時、東軍

４．岡山烽火場（おかやまのろしば）